



「行革」で変わる船橋の未来

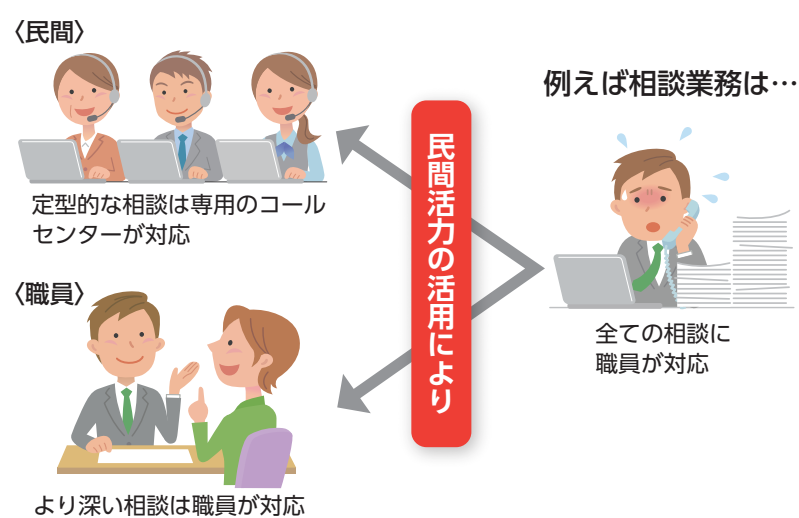
vol.2

民間活力の積極的活用

なぜ「民間活力」が必要なの？

市では、これまでも職員定数の見直しや採用の抑制を行い、スリム化を図ってきました。限られた職員の中、安定した市民サービスを提供するためには、公務員が自ら対応すべき分野へ職員を集中させることが重要です。そのため、民間に任せられた方がサービスの充実が図れる分野については、積極的に任せていく必要があります。

民間活力を活用すると



民間活力の活用事例



▲アンデルセン公園 (指定管理者制度導入後)

アンデルセン公園は(公財)船橋市公園協会を指定管理者としています。さまざまな花の品種を一堂に集めた企画展の開催や、企業の協賛によるアンデルセン童話をイメージした花壇の設置、造園のプロが勧める品種を紹介する草花の見本ガーデンの実施など、専門性・ノウハウを活用した管理運営を行っています。

これからの取り組み

これまで民間活力を活用してきましたが、安定したサービスを提供するために、公の施設(ハコモノなど)を管理運営する業務や市が行っているその他の業務について、さらなる民間活力の活用を推進します。

検討項目

公の施設(ハコモノなど)の管理運営業務

専門性やノウハウを持った民間事業者等に、公の施設の管理運営を任せること(指定管理者制度の導入)により、開館時間の延長や教室事業などイベントの充実等が期待できます。

市が行っているその他の業務

定型的な業務や専門性が高い業務など、民間に任せられた方がサービスの充実が図れる業務の委託化を進めることによって、より効果的な行政運営を目指します。

活用事例



▲窓口対応



▲警備

検討事例



▲運動公園



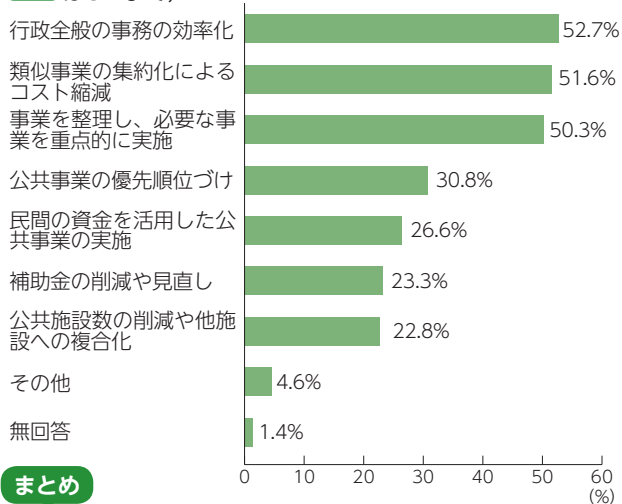
▲一宮少年自然の家

※指定管理者制度とは…公の施設の管理運営を民間事業者等に任せることで、より効果的に施設の管理運営を行うことを目的とした制度

行革アンケート結果

「行財政改革推進プラン」の策定にあたり、昨年11月に行財政改革の推進に関するアンケート調査を市内在住の男女3000人を対象に行い、1264人(42.1%)から回答を得ました。今号では、その一部を紹介します。(アンケートの全文は行政経営課で閲覧できるほか、市ホームページでも見られます)

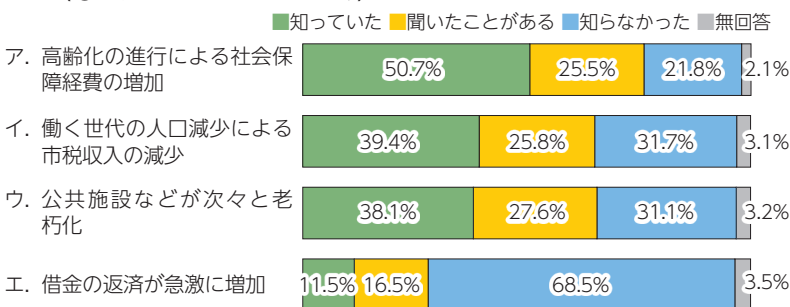
市が支出を節減する上で重点的に取り組むべきもの(〇は3つまで)



まとめ

「行政全般の事務の効率化」「類似事業の集約化によるコスト縮減」「事業を整理し、必要な事業を重点的に実施」など、行政内部の効率化に関する取り組みが上位を占めました。

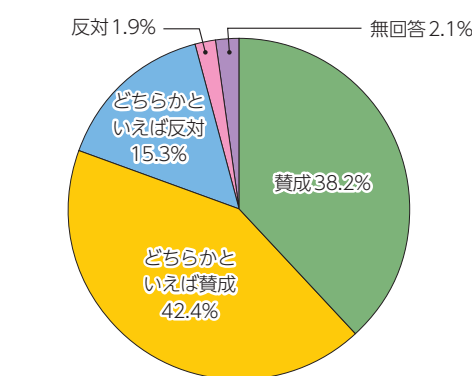
今後の市の課題について知っているもの(〇はA~Eそれぞれ1つだけ)



まとめ

「高齢化の進行による社会保障経費の増加」の認知度が高い一方で、「借金の返済が急激に増加」の認知度は低い結果となりました。

市が窓口業務や公共施設の管理運営などに民間事業者の力を借りることについて(〇は1つだけ)



まとめ

「賛成」または、「どちらかといえば賛成」と回答した人が合わせて8割を超える結果となりました。

※集計の都合上、合計値が100%にならないことがあります

市では令和元年2年度の2年間を行革(行財政改革)の集中取組期間としています。今号では取り組みの柱の1つである「民間活力の活用」についてお知らせします。

問 行政経営課 ☎ 436・2462

6つの柱で行革に取り組みます

業務改善

民間活力の活用

事業の見直し

公共工事の見直し

使用料等の見直し

歳入の確保

次回(広報ふなばし8月1日号)は「使用料等の見直し」、市民の皆さんの意見を聞く「パブリックコメント」をお知らせします

手賀沼地域の農業を守る工事を行います

県内でも有数の農業地域である手賀沼周辺は、埋め立てによる地盤沈下や都市開発のため、農業に支障が出ています。そこで国、県、船橋市は8市で3年度から工事を行う予定です。詳しくは手賀沼土地改良区ホームページをご覧ください。

問 農水産課 ☎ 436-2492